

第5学年 国語科学習指導案

日時 平成15年9月30日(火) 5校時
児童 5年1組 男17名 女19名 計36名
場所 視聴覚室
指導者 佐藤 正 寿

1. 単元名 地球環境について考えよう

「一秒が一年をこわす」「ホテルの水辺」「ぼく、わたしの環境作文」を書こう(光村図書)

2. 単元と子ども

(1) 教材観

学習指導要領第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。また、同学年の「書くこと」の目標は「目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。」である。本単元の主目標はこれら2つの目標に基づく。「地球環境について考えよう」という単元名からわかるように、現在の地球環境の問題と筆者の考えを読み取ること、それをもとに環境についての作文を書くことを通して、地球環境への考えを深める内容になっている。

教材は3つある。「一秒が一年をこわす」には、筆者の考えが題名の数字の例えに集約されている。具体的な環境破壊の例も分かりやすく示されており、子どもたちが目的をもって読み取るのに適切な教材である。「ホテルの水辺」は、人々の話からホテルのすみかについて考える内容である。難しい語句も少なく、分かりやすい内容で、子どもたちの力で読み取るにふさわしい教材である。「『ぼく、わたしの環境作文』を書こう」は、先の2つの教材をもとに環境に関する自分の考えを効果的に書くことを意図したものである。3つともそれぞれ教材としてのよさが明確であり、その点を留意して指導する必要がある。

(2) 児童観

子どもたちは5年生になって一人学びの方法として、前単元「海にねむる未来」でキーワードを見つけること、簡単な文図でまとめることを学習してきた。それぞれの方法に対して、意欲的に取り組む子どもたちがほとんどであり、そのまとめ方も自分なりに工夫しようとする子どもも数名いる。また、課題に対して必要な部分を見つけたり、一人学びをしたりすることはできるものの、それに対する自分の思いや考えを書くことに抵抗のある子どももいる。この単元では、可能な限り子どもたちの感じたことを発表させたい。

要旨については、必要なキーワードがわかれば8割の子どもは書くことができる。その点ではキーワードの見つけ方が本単元では重要と考える。

必要な情報を集めそれをもとに環境についての作文を書くことは、5年生になって初めての経験である。そのために作文の手本となる部分を教材から拾い出し、子どもたちに提示していく必要があると思われる。

(3) 指導観

指導にあたっては、3つの教材のそれぞれの指導目的をはっきりさせて行いたい。

「一秒が一年をこわす」では確かな読みの力を育てることに重点を置く。一人学びで自分なりの読みを行い、学び合いや教師の発問によって読み取りを深めて要旨をまとめるようにする。その時に、筆者の考えを讀みの重要な視点として位置付け、述べ方について読み取る技能を高めるようにしたい。「ホテルの水辺」では、「一秒が一年をこわす」で身に付けた読み取り技能を生かし、自力で読み取って要旨をまとめることにチャレンジをさせる。支援が必要な子どもには学習したことを生かした個別指導をしていきたい。「『ぼく、わたしの環境作文』を書こう」は、環境に対する意識の高まりを生かして、自分たちが調べた環境についての説明文を書く学習である。環境問題の様々な事実を図書室の本やインターネット等を活用して調べさせ、モデルとなる説明文(「一秒が一年をこわす」を分かりやすく書き直したもの)を提示させて、全員が書くことができるようにさせたい。

これら3つの教材を関連づけていくために、単元最初の時間に学習の全体を見通す活動を行いたい。また、評価規準表をもとに評価を行い、次時につながる支援を行いたい。

3. 単元指導目標

- ◎ 地球環境について、事実と意見の関係をおさえて要旨をとらえることができる。(読)
- ◎ 目的や意図を考えて、集めた情報をもとにして環境に関する自分の考えを効果的に書くことができる。(書)
- 環境問題に関心を持ち、課題について意欲的に考えたり、話し合ったりしようとしている。(関)
- 自分の立場や意図をはっきりさせて話し合うことができる。(話聞)
- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。(言)

4 単元の指導・評価計画（総時間数13時間）

段 階	時 間	本時のねらい	主な学習活動 ○・学習課題 ☆・主な支援の手立て	評価規準 (評価の方法) 観点	判断基準及び指導・支援の手立て		
					A:十分満足できると判断する視点	B:おおむね満足できると判断する視点	C:努力を要する児童への指導・支援の手立て
一 と ら え る	1	地球環境という視点から、私たちの生活に目を向け、人類の課題について考えていくという単元のねらいをとらえようとしている。	○文章を読んで感想を話し合い学習の計画を立てよう。 ・通読をする。 ・簡単な感想を話し合う ・学習の計画を立て、見直しを持つ。 ☆教科書の写真を手がかりに身近な環境問題の興味を高めるようにする。	地球環境について興味を持って文章を読んだり、題名について考えを述べたりする。(発言・ノート) (関)	地球環境について考えるという話題に興味を持ち、知っていることを意欲的に話したり、教材文や題名から感じることを発表したりしている。	地球環境について考えるという話題に興味を持って文章を読んだり、題名について考えを述べたりしている。	地球環境について身近な問題としてとらえるために、身の回りで行っている活動について資料を提示し興味を高めるようにする。
二 ふ か め る	2	「一秒が一年をこわす」の形式段落と意味段落の構成を考え、学習課題を立てることができる。	○「一秒が一年をこわす」の段落について考え、課題を作る。 ・形式段落と意味段落の構成を考える。 ・学習課題を立てる。 ☆中心となる段落を確認してから課題を考えさせる。	段落構成をもとに学習課題を立てる。(発言・ノート) (読)	形式段落の構成と意味段落の内容がわかり、それをもとに追究したい学習課題を立てている。	意味段落の内容がわかり、それをもとに追究したい学習課題を立てている。	文章の中から、にあてはまる文を見つけさせ、それをもとに課題を立てさせる。
I 本 時	3	便利な生活のために使う資源やエネルギーが地球に及ぼす影響について、筆者の考えをもとに読み取ることができる。	○便利な生活が地球の環境におよぼすえいきょうについて読み取ろう。 ・キーワードを文図でまとめる ・筆者の考えを話し合う。 ☆キーワードを選ぶ視点を考えさせる。 ☆筆者の考えに関する効果的な発問を行う。	文章に書かれている事実と筆者の考えをとらえ、読み取る。(発言・ノート) (読)	文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら筆者の考えをとらえ、環境破壊について要旨をまとめている。	文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら、環境破壊について要旨をまとめている。	キーワードを指定して環境破壊について要旨をまとめさせる。
	4	地球の誕生と人類の誕生の関係をとらえ、地球環境の危機について筆者の考えをもとに読み取ることができる。	○地球と人類の誕生と未来の危機について読み取ろう。 ・キーワードを文図でまとめる ・筆者の述べ方を話し合う。 ☆地球と人類の誕生の例を出す意義について考えさせる。	文章に書かれている事実と筆者の考えをとらえ、読み取る。(発言・ノート) (読)	文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら筆者の考えをとらえ、地球環境の危機について要旨をまとめている。	文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら、地球環境の危機について要旨をまとめている。	キーワードを指定したり確認したりして、地球環境の危機について要旨をまとめさせる。
	5	一秒と一年の関係をとらえ、人類の未来の危機について筆者の考えをもとに読み取ることができる	○「一秒が一年をこわす」という筆者の考えについて読み取ろう。 ・キーワードを文図でまとめる ・筆者のたとえについて考える ☆たとえについて言い換えを考えさせ、理解を深めさせる。	文章に書かれている事実と筆者の考えをとらえ、読み取る。(発言・ノート) (読)	文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら筆者の考えをとらえ、人類の未来の危機について要旨をまとめている。	文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら、人類の未来の危機について要旨をまとめている。	キーワードを確認して人類の未来の危機について要旨をまとめさせる。

	6	全文の要点をまとめ、環境問題について自分の考えをもつことができる。	○「一秒が一年をこわす」の要旨をまとめよう。 ・今までの読み取りをもとに要旨をまとめる。 ・環境問題について自分の考えを書く。 ☆文章全体のキーワードを確認してからまとめさせる。	文章に書かれている事実と筆者の考えの関係をとらえ、自分の考えをもつ。 (発言・ノート) (読)	書かれている内容について、事実と感想・意見の関係を押さえ、環境について自分の考えをもち、課題をもっている。	文章に書かれている事実と筆者の考えの関係を押さえ、自分の考えをもっている。	学習してきた具体的な事例をもとに、自分の考えをまとめるよう促す。
三 ふ か め る II	7	「ホテルのすむ水辺」の全文を読み、筆者の考えをまとめることができる。	○「ホテルのすむ水辺」を読み取り、要旨をまとめよう。 ・中心段落とキーワードを考える。 ・要旨をまとめる。 ☆前教材で学んだ方法を活用させるようにする。	読みの視点をもとに、筆者の考えをとらえる。 (発言・ノート) (読)	読みの視点をもとに事実と感想・意見の関係を押さえ、筆者の考えや意図をとらえ、まとめることができる。	読みの視点をもとに筆者の考えや意図をとらえ、まとめることができる。	読みの視点があてはまるキーワードや段落を教え、まとめさせる。
四 ひろ げ る	8	「ぼく、わたしの環境作文」の対象として、自分の身の回りにある環境問題の中で興味のあるものを選ぶことができる。	○環境についての作文のテーマを決めよう ・自分たちが知っている環境問題について話し合う。 ・関心をもったものをテーマとする。 ☆関連図書を準備し、効果的に紹介をする。	互いの関心を話し合うことによって自分の取り組むテーマを決める。(発言・カード) (読)	互いの関心を話し合うことによって自分のテーマをはっきりさせ、友達に対しても助言をしている。	互いの関心を話し合うことによって自分のテーマをはっきりさせる。	友達具体的なテーマを開き、自分の取り組んでみたいものを選択させる。
	9 10	選んだテーマについて似ているテーマごとにグループを作り、作文に必要な情報を調べることができる。	○テーマに必要な情報を集めよう。 ・関連図書・インターネット等を活用して必要な情報やそれに対する自分の考えをカードに書く。 ☆教科書の表現を参考にさせて自分の考えを書かせる。	必要な情報を得るために、情報の中から必要な事柄や資料を選び整理している。(発言・カード) (読)	図書室・インターネット・地域の施設などの方法で、自分の調べたことの中から必要のある事柄や資料を選び、自分の言葉を入れながら調べている。	図書室・インターネット・地域の施設などの方法で、自分の調べたことの中から必要のある事柄や資料を選んで調べている。	課題にあった資料を提示し、その中から伝えたい内容は何かを考えさせる。
	11 12	調べたことについて、「一秒が一年をこわす」の段落構成をもとに「ぼく、わたしの環境作文」を書くことができる。	○調べたことをもとに、環境についての作文を書こう。 ・前時に書いたカードをもとに作文を書く。 ・観点に基づき推敲をする。 ☆作文の構成用の見本教材を準備し、参考にさせる。	自分の決めたテーマで段落構成を考えて作文を書く。 (作品) (書)	調べた内容について「はじめ」「なか」「おわり」「まとめ」の構成で、自分の主張を盛り込みながら作文を書いている。	調べた内容について「はじめ」「なか」「おわり」「まとめ」の構成で、作文を書いている。	作文用に手直した教材を用いて、言葉を当てはめて作文を書かせるようにする。
	13	作文の発表会を行い、学習の学びを進んで振り返ろうとしている	○作文の発表会をしよう。 ○学んだことを振り返ろう。 ・作文の発表会を行う。 ・学習全体で環境について考えたことと学んだことについて話し合う。 ☆視点を考えさせてから聞くようにさせる。	作文の発表会を行い、単元の学習で学んだことをまとめる。 (発言・ノート) (書)	作文発表会やふり振り返りから、環境について興味をもったことと学んだことの両方について、ノートに書こうとしている。	作文発表会やふり振り返りから、環境について興味をもったことと学んだことのうちどちらかについてノートに書こうとしている。	個別的な発問を提示し、その答えをノートに書くようにさせる。

5 本時の学習指導

(1) 目標

便利な生活のために使う資源やエネルギーが地球に及ぼす影響について、筆者の考えをもとに読み取ることができる。

(2) 本時の指導にあたって

本時は3つある意味段落を読み取る最初の時間である。次の点に留意していきたい。

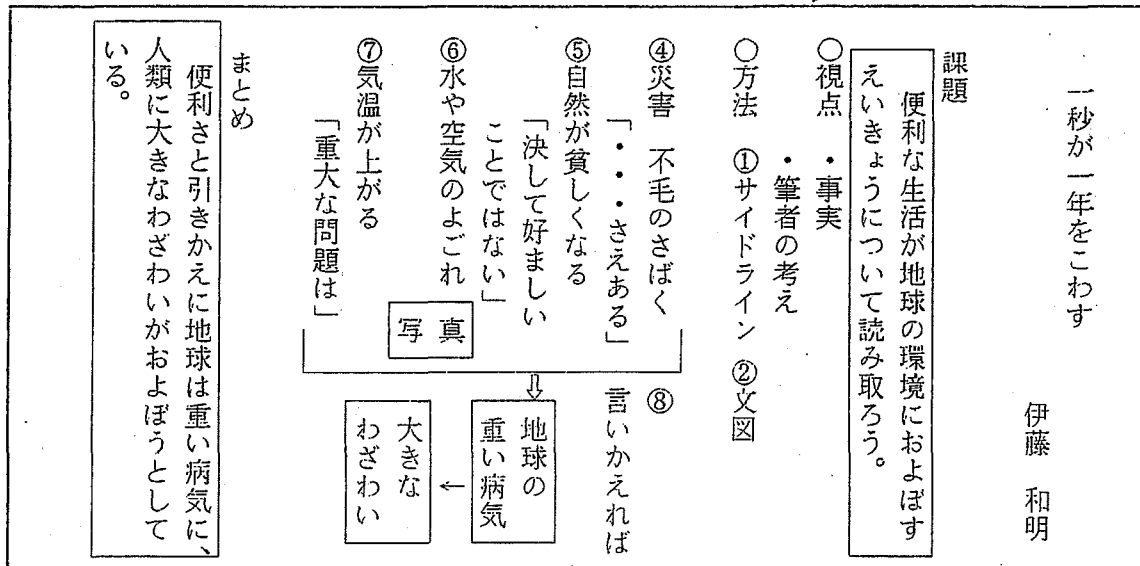
- 具体的な読みの視点と方法を一人学びの前に確認し、自分の読みについて活動の見通しを持たせる。また、「ペア発表を行う」といった目的意識も高めるようにする。
- 学び合いの場面では子どもたちの読みを深める効果的な発問を行い、確かな読みの技能を育てていく。
- 課題に対するまとめを書く段階において評価規準および判断基準を活用し、効果的な支援を図っていく。

(3) 展開

段階	学習内容・学習活動	支援の手だてと評価の観点	準備・資料																			
とらえる 4分	1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 便利な生活が地球の環境におよぼすえいきょうについて読み取ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 初発の感想や前時の内容に触れながら、課題をとらえさせる。 • 「環境破壊の事実」と「それに対する筆者の考え」を読みの視点として確認をする。 																				
ふかめる	2 課題について見通す。 (1) どのような方法で読み取るか見通す。 ①キーワードを抜き出す ②文図にまとめる (2) 見通しを意識して音読をする。 (①～⑧段落・指名読み)	<ul style="list-style-type: none"> • 今までの説明文の学習で行った「キーワード→文図」の方法のよさを想起させる。 • 早く作業が終わった場合には、まとめて自分が考えたことを書くようにする。 • 「ぼく、わたしの環境作文」の文章構成の参考になる範囲であること、書いた後はペア発表で友達に見せるノートであることを強調し、目的意識を高めたい。 																				
る	3 見通しに沿って一人学びをする。 (1) 例として④段落のキーワードを抜き出す。 (2) 一人学びをする。 【例】 <table style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">④ 災害</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">不毛のさばく</td> <td rowspan="4" style="padding: 0 10px;">}</td> <td rowspan="4" style="padding: 0 10px;">⑧</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重地</td> <td rowspan="4" style="padding: 0 10px;">}</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">わ大</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑤ 自然が貧しくなる</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">水や空気のよごれ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">い球</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ざき</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑥ 水や空気のよごれ</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">気温が上がる</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">病の</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">わな</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑦ 気温が上がる</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"></td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">気</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">い</td> </tr> </table>	④ 災害	不毛のさばく	}	⑧	重地	}	わ大	⑤ 自然が貧しくなる	水や空気のよごれ	い球	ざき	⑥ 水や空気のよごれ	気温が上がる	病の	わな	⑦ 気温が上がる		気	い	<ul style="list-style-type: none"> • 一人学びの前に重視する段落と扱う範囲を確認する。(③段落・問題提起、④～⑦段落・例示、⑧段落・まとめ、一人学びの範囲は④～⑧段落) • ④段落でキーワードを抜き出す全体指導を行う。この場合には起こった結果を短く書くようにする。 • 個別指導が必要な子どもには「開発が進んでどうなったの?」といった個別発問を与える。 • 早く終わった子には、見通しで確認した活動をするように促す。 • 「自分なりの読み」ができたことを個別に認め励ましていきたい。 	
④ 災害	不毛のさばく	}	⑧			重地		}	わ大													
⑤ 自然が貧しくなる	水や空気のよごれ					い球			ざき													
⑥ 水や空気のよごれ	気温が上がる					病の			わな													
⑦ 気温が上がる				気	い																	
	4 課題について学び合い、深め合う。 (1) 調べたことをペアで発表し合う。 (2) 全体で発表し合い、深め合う。	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の読みを表現することを全員にさせるために、最初は隣の子どもにノートを見せて説明をする。聞き手はまとめのよさを感想で伝える。 • なぜそのキーワードを選んだのか、理由も付け加えて発表させるようにする。 																				

32分	<p>【筆者の考えに関わる表現】</p> <p>④段落「～さえある」</p> <p>⑥段落「決して好ましいことではない」</p> <p>⑦段落「重大な問題は」</p> <p>⑧段落「言いかえれば」</p> <p>(3) 筆者の環境に対する考えについて話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境破壊の内容をイメージ化できる具体例や資料を用意する。 「筆者の考え」に関わる補助発問をして、学習内容をさらに深める。(例:⑥段落「決して好ましいことではない」は何と言いかえられますか。) 深める過程で部分音読を取り入れて、考える手がかりとさせたい。 考えの根拠となる表現についても触れるようにさせたい。 「重い病気」「わざわざ」の意味を考えさせる。 	写真						
まとめる	<p>5 課題についてまとめる。</p> <div data-bbox="279 627 694 817" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>便利さと引きかえに地球は重い病気にかかり、人類に大きなわざわざがおよぼうとしている。 (「今は地球の危機」とこの文章を読んでわたしも思った。)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> つまずいている子に対しては、使う言葉を指定する。 まとめを早く書いた子は、筆者の考えに対する自分なりの感想をまとめの文に付け加えるように促す。 <p>【評価規準(方法)】(読むこと)</p> <div data-bbox="726 772 1332 862" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>文章にかかれてある事実と筆者の考えをとらえ、読み取る。(発言・ノート)</p> </div> <p>【判断基準】</p> <table border="1" data-bbox="470 884 1332 1108"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら筆者の考えをとらえ、環境破壊について要旨をまとめている。</td> <td>文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら、環境破壊について要旨をまとめている。</td> <td>キーワードを指定して環境破壊について要旨をまとめさせる。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら筆者の考えをとらえ、環境破壊について要旨をまとめている。	文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら、環境破壊について要旨をまとめている。	キーワードを指定して環境破壊について要旨をまとめさせる。	自己評価カード
A	B	C							
文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら筆者の考えをとらえ、環境破壊について要旨をまとめている。	文章表現に着目し、事実と意見を読み分けながら、環境破壊について要旨をまとめている。	キーワードを指定して環境破壊について要旨をまとめさせる。							
9分	<p>6 まとめの音読をする。(一斉)</p> <p>7 学習の振り返りをする。</p> <p>8 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 便利な生活が環境におよぼす影響を考えながら音読をさせる。 カードに本時の学習について自己評価させる。 個々人の学習ぶりを賞賛したい。 次時は地球と人類の誕生について読み取ること知らせる。 							

(4) 板書計画



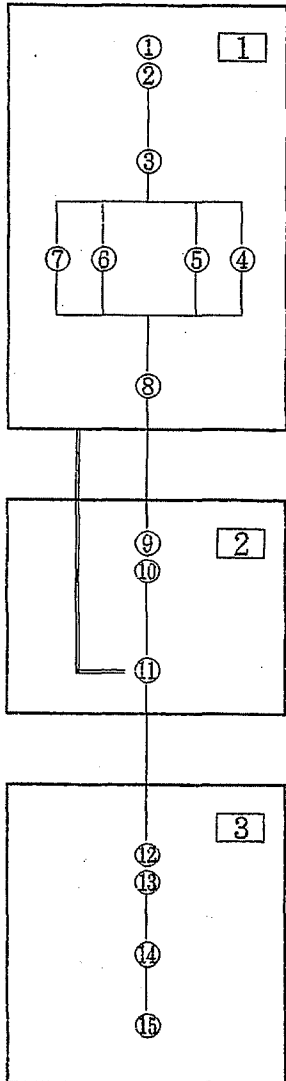
(1) 要旨

人類は知恵と技術でたいへん便利な生活を送ることができるようになった。しかし、その一方で、地球が四十六億年かけて築き上げてきた豊かな自然環境を、たった二百年という短い間に破壊してしまおうとしている。地球の歴史を一年にたとえるなら、人類はたった一秒の間に地球に対して取り返しのでないことをしようとしている。これ以上人類がおごりたかぶるなら、人類は地球から大きなしっぺ返しを受けるだろう。

(2) 小見出しおよび形式段落の要点

小見出し	形式段落の要点
<p>1 科学技術の発達と地球環境の悪化</p>	<p>① 人類は優れた知恵と技術で発展をとげ、便利な生活を築いてきた。 ② 多くのものが自動化され、世界の情報が入り、交通機関も発達した。 ③ 便利な生活のために使う資源やエネルギーが、地球の環境に大きな影響を及ぼしつつある。 ④ 森林が切り開かれると、災害や土地が荒れ、砂漠ができる場合もある。 ⑤ 森林や干潟の開発で野生の生物の種類が減り、自然が貧しくなる。 ⑥ 資源やエネルギーの大量消費により、水や空気が汚れている。 ⑦ 石油や石炭の大量消費で二酸化炭素が増え、地球の温度が上がっていく。 ⑧ 便利さと引きかえに地球が重い病気にかかり、人類自身に災いが及ぼうとしている。</p>
<p>2 地球と人類の誕生と未来の危機</p>	<p>⑨ 地球は四十六億年前に誕生した。 ⑩ 地球には様々な生命が誕生し、最後に人類が誕生した。 ⑪ 人類はここ二百年の間に便利な社会を作り、その結果地球の環境を壊し、人類の未来も危うくしている。 ⑫ 地球の長い歴史に対して、人類の生きてきた時間は短い。 ⑬ 地球の歴史を一年にたとえると、人類の歴史はわずか七時間に過ぎない。</p>
<p>3 人類のおごりと地球からのしっぺ返し</p>	<p>⑭ 人類が様々な環境問題を引き起こすようになったのは、地球の一年に対して一秒にすぎない。 ⑮ 人類がこれ以上おごりたかぶるなら、地球から大きなしっぺ返しを食うにちがいない。</p>

(3) 段落構成図



二



地球環境かんについて
考えよう

わたしたちが毎日生活している地球。人類の手によって変わりつつある地球。説明文を読んで自分の課題を明確にし、それについて調べてみよう。そして、調べたことを発表し、自分たちにてきること何か、話し合つて考えよう。

5

一秒が一年をこわす

伊藤 和明文
川村 易 絵

この地球の上に、わたしたち人類の祖先が誕生したのは、今からおよそ三百五十万年から四百万年ほど前のことだといわれている。その人類は、すぐれたちえと技術とを持ち合わせていたために、ほかの生物たちをしりめに、すばらしい発展をとげてきた。特に、こ

10

祖先

技術

の二百年ほどの科学技術の発達はいちじるしく、わたしたちは今、たいへん便利な生活を送ることができるようになった。

身の回りを見回しただけでも、多くのものが自動化されたために、人手をあまり使わなくてもすむようになったし、家庭のテレビでは、世界各地で今起こっている出来事を、居ながらにして見ることができようになった。また、交通機関も発達して、日本からヨーロッパまで、十二時間前後で飛ぶことができるようになった。

5

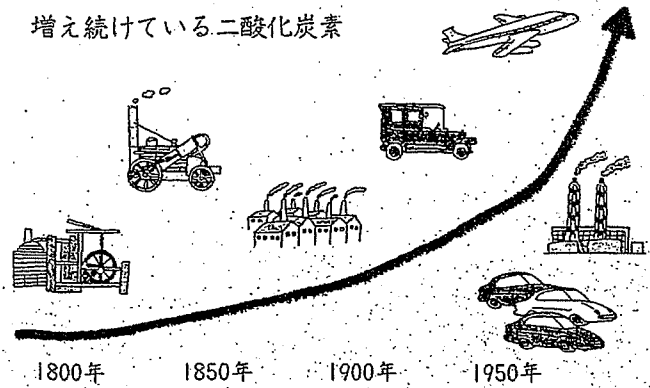
居ながら

しかし、わたしたちがこうした便利な生活を送るためには、地球上のたくさんの資げんやエネルギーを使わなければならない。そのことが、今、地球の環境に大きなえいきょうをおよぼしつつある。例えば、世界の各地で森林がどんどん切り開かれている。木は、紙などを作るための原料とされたり、燃料として使われたりする。切られたあとの土地は、耕地や住居のための用地となる。しかし、

10

住居
耕地
燃料

増え続けている二酸化炭素



このままの活動を人類が続けていけば、地球の環境は悪くなるばかりで、その結果、人類が永遠に生きていけるかどうかさえあやぶまれているのである。言いかえれば、わたしたちの生活を支えている便利さと引きかえに、地球が重い病にかかり、最終的には人類自身に、大きなわざわいがおよぼうとしているというこ

最
シユウ
的

ににげていくはずの熱を吸収する働きがあるため、地球の気温がどんどん上がっていくだろうと予測されている。

予
ソ

二
酸化炭素

森林がなくなると、大雨の際、山くずれや洪水などの災害を引き起こしやすくなり、土地はあれ果てていく。こうして、不毛のさばくに変わってしまった地いきさえある。

また、森林やひがたなどの開発が進んだために、野生の生物たちはすみかをうばわれ、次々とほろびようとしている。野生の生物の種類が減るということは、自然がそれだけ貧しくなることであり、生物の一員である人類にとっても、決して好ましいことではない。

さらに、資げんやエネルギーを大量に使えば使うほど、その結果として出る廃棄物の量も増える。そのため、地球上の各地で、生物にとって大切な水や空気がよごれてしまった。海や川の上よごれは、水辺にすむ生物はもちろん、人類にも悪いえいきょうをあたえ、大気によごれは健康をそこなう原因となっている。

そのうえ、人類全体にとって重大な問題は、わたしたちが石油や

水
ミヅ

最
シユウ
的

とができる。

地球が太陽系のわく星の一つとして誕生したのは、今から四十六億年ぐらい前だといわれている。地球は太陽からほどよいきよりに生まれ、また、ほどよい大きさを持つていたために、そこには水が生まれ、大気が生まれた。

やがて、その水の中に、さまざまな生命が誕生し、次々と進化をしてきた。初め海で栄えた生命は、四億年ぐらい前からは、陸上にも広がるようになった。いろいろな種類のキョウリュウが、わがもの顔にのし歩いていた時代もあった。そのキョウリュウがほろびると、次にはほにゅう類の時代が来た。そして、最後に人類が誕生したのである。

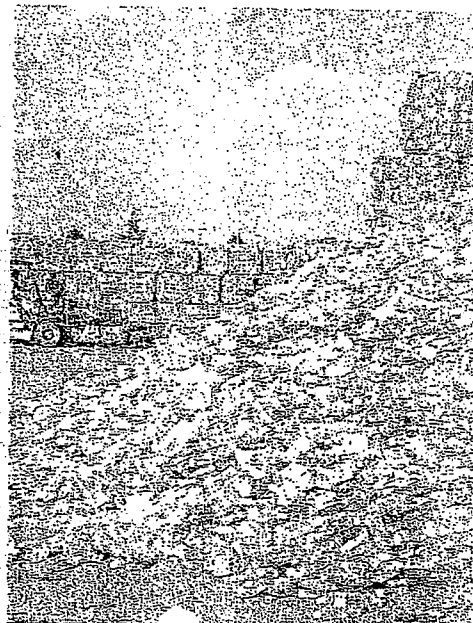
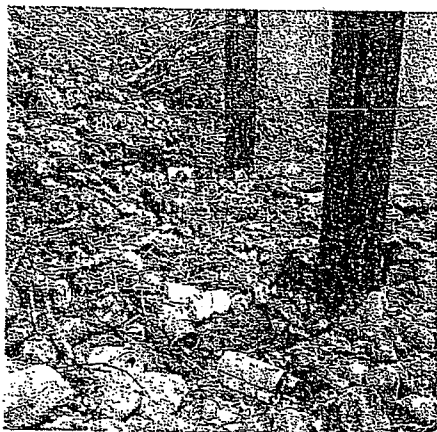
人類は、誕生してからの長い間、生物の一員として、地球の自然とうまく付き合いながら生き続けてきた。ところが、ここ二百年ほどの間に、人類は、ちえと技術をふんだんに使って便利な社会を作りあげ、その結果として、地球の環境をこわし、人類自身の未来までもあやうくしているのである。

四十六億年という地球の長い歴史に対して、人類の生きてきた時間は、わずか三百五十年から四百万年ほどにすぎない。

仮に、地球の歴史である四十六億年を、一年にたとえてみよう。地球が一月一日午前0時に生まれ、今が、まるまる一年たった大みそかの夜中の十二時だとしたら、人類の誕生したのはいつごろになるだろうか。答えはなんと、十二月三十一日の午後五時ごろなのである。つまり、地球の歴史を一年にたとえるなら、人類は、生まれてからわずか七時間ほどしかたっていないことになる。

仮

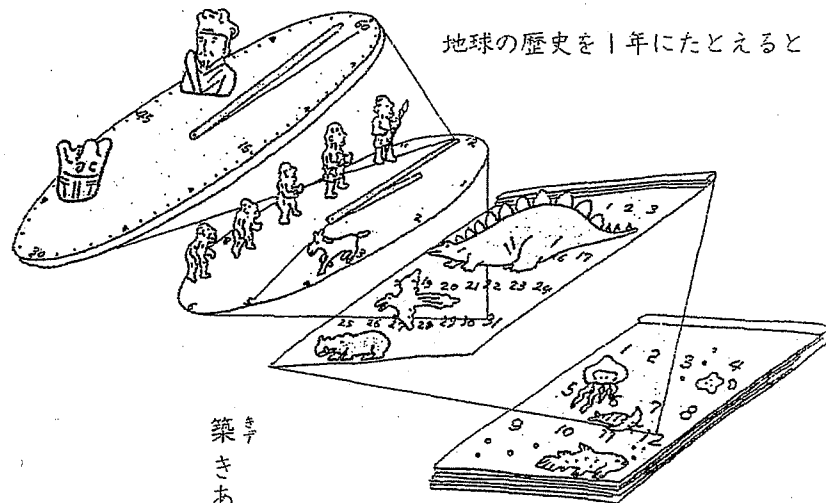
さかえる



しかも、その七時間の大部分を、人類は、地球の自然と仲良くしながら生きてきた。人類が、さかんな活動の結果として、さまざまな環境の問題を引き起こすようになったのは、わずか二百年ぐらいのことだから、地球の一年に対して、一秒とちよつとの時間にすぎない。たった一秒間、地球の上で活動をしたために、人類は、地球が一年かかって築きあげてきた環境をこわしてしまい、地球に対して取り返しのつかないことをしようとしている。人類が地球の上で、もしこれ以上おごりたかぶるなら、地球からは、大きなしっぺ返しを食うにちがいない。

10

地球の歴史を1年にたとえると



築きあげる

国語 「地球環境について考えよう」 自己評価カード1

5年1組 名前

時	内容	評価	感想
1	感想を書き話し合う 学習計画を立てる	A B C	
2	段落の構成を考える 学習課題を作る	A B C	
3	便利な生活が環境におよぼす すえいきょうの読み取り	A B C	
4	地球と人類の誕生と未来の危機の読み取り	A B C	
5	「一秒が一年をこわす」という筆者の考えの読み取り	A B C	
6	要旨をまとめる 環境問題について考える	A B C	
7	「ホテルのすむ水辺」を読み取る	A B C	

座席表

(個々の読みの特徴と支援)

教 卓

1 書くことに抵抗を感じる人が多い。発表の場で積極的に参加させたい。	2 要旨をまとめることが苦手である。キーワードをもとに考えさせたい。	3	4	5	6 キーワードを抜き出すだけで一人学びが終わりがちである。矢印でつなぐことを指導したい。
7 環境問題に対する関心が高く、知識もある。その知識を引き出して発表をさせたい。	8	9 筆者の考えに対する自分なりの考えを持つことができる。発表で引き出したい。	10 筆者のたとえの表現に関心を持つ。筆者の表現の話し合いの場面で生かしたい。	11	12 キーワードを見つけても文図で迷うことが多い。個別に支援をしていきたい。
13	14 キーワードを見つけるのが苦手である。個別発問で支援をしていきたい。	15	16 初発の感想で筆者の主張の分析を自分なりにしている。発表で生かしたい。	17 キーワードを抜き出すだけで一人学びが終わりがちである。矢印でつなぐことを指導したい。	18
19	20	21	22 作業が早く、発表にも意欲的である。筆者の考えに対する感想を多く書かせたい。	23	24
25	26	27 作業が早く、発表にも意欲的である。筆者の考えに対する感想を多く書かせたい。	28 キーワードを見つけるのが苦手である。個別発問で支援をしていきたい。	29 文章に着目した鋭い読みができる。学び合いで生かしていききたい。	30 筆者の考えにとっても共感をした感想を持っている。その主体的な読みを生かしたい。
3.1 文図を構造的にまとめることができる。発表は遠慮がちなので意図的に指名したい。	3.2	3.3 文図を構造的にまとめることができる。発表は遠慮がちなので意図的に指名したい。	3.4 要旨をまとめることが苦手である。キーワードをもとに考えさせたい。	3.5 筆者の考えに対する自分なりの考えを持つことができる。発表で引き出したい。	3.6